知識を分ちあい、技を競う

ピエール・ボードリ
エス・ビー・エイ株式会社　代表取締役

「中国語料理用語辞典」完成により深まる友好関係

日中両国のエスコフィエ協会、および、その関係者にとって、4月に行われた中国会長の日本視察は大変意義があった。5月には日本代表団も上海に行き交流をはかり、友好と相互理解を一層深めるに至った。

5月28日、オークラ・ガーデンホテルに於いて＜中仏料理大辞典＞制作発表レセプションが行われた。素晴らしいビュッフェと共に行われたレセプションには、故山本氏の奥様がご出席になられ、日本エスコフィエ協会代表団は勿論のこと、中国エフコフィエ協会の幹部も出席した。

この辞典は既存のものより内容が充実しているばかりでなく、印刷の仕上がりも格段によいものとなっている。今日のフランス料理のすべてが網羅されていることは言うまでもない。6月初旬に、この辞典の見本が上海フランス当局に届けられる予定となっている。

第一回ボキューズ・ドール・アジア、優勝の栄誉に輝く日本チーム

翌29日にPudong Expoに於いて、＜第一回ボキューズ・ドール・アジア＞が開催された。フランス本国で2009年1月27日～28日にリヨン・シラ国際外食産業見本市で開催される本選に先立ち、ポール・ボキューズ氏とそのスタッフはまず地域別予選を企画したのである。この第一回予選大会にはアジアの10カ国（日本、韓国、中国、ベトナム、インドネシア、シンガポール、マレーシア、タイ、インド、レバノン）から選手が参加した。大会で選手達に与えられた時間は3時間で、選手達はノルウェー産サーモンを食材として14アシェットの料理に挑戦した。3日間にわたるコンクールで各国選手が料理を競いあった結果、優勝の栄誉に輝いたのは日本チームであった。（2007年のボキューズ・ドール本選で長谷川幸太郎氏が率いる日本チームは6位に入り、シード権を得ていたのであるが、事情により今回の選抜大会に参加したものである。）長崎ハウス・テンボスの佐々木康二氏が優勝の栄冠を獲得。彼は上柿元勝氏の下で修行した経歴の持ち主である。（副賞は10,000ユーロ）2位のマレーシア、3位のシンガポール、4位の韓国も日本と共にリヨンの本大会に参加する。最優秀Commis賞はレバノンに与えられた。

シャンパーニュで乾杯！

優勝した佐々木康二氏とその料理